



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.6

結果報告

回答期間 : 2022年6月2日(木)～6月16日(木)

回答対象 : こども食堂
(むすびえの「地域ネットワークメーリングリスト」と
「こども食堂ネットワークのメーリングリスト」から
回答を呼びかけ)

回答数 : 47都道府県 623件

実施 : 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

第1部

こども食堂の現状&困りごとアンケート vol.6

- ・ こども食堂開始年
- ・ こども食堂の運営母体
- ・ 2022年6月時点のこども食堂の開催状況、開催していない理由
- ・ 一堂に会してのこども食堂の再開時期、コロナ禍における変化
- ・ 活動に関する困りごと

第2部

コロナ禍におけるボランティア

- ・ コロナ前後での変化
- ・ ボランティア参加者の属性、きっかけ
- ・ 必要としているボランティア

第3部

社会情勢によるこども食堂への影響

- ・ 物価上昇の影響
- ・ ウクライナ避難民の方との接点

第4部

活動に関する困りごと(自由記述)

過去の「こども食堂の現状&困りごとアンケート」調査結果は、以下にまとめています。

第1回 2020年4月13日～17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 2020年6月19日～25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

第3回 2020年9月20日～28日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/10/musubie_Q3_sheet_1020_02.pdf

第4回 2021年2月1日～10日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/03/musubie_Q4_sheet_fix0312.pdf

第5回 2021年6月23日～7日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/07/musubie_Q5_sheet_0716.pdf

※直近で実施した全国こども食堂実態調査とは調査方法及び回答数が異なっているため、第6回の困りごとアンケートでの比較分析の対象外としております。

第1回全国こども食堂実態調査 2021年10月15日から12月15日

<https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/03/a7043c68eccf433117d7c6238c32ac0e.pdf>

むすびえ理事長・湯浅よりアンケート結果総括

第6回のアンケート結果をお送りします。

今回は以下のような問題関心に基づいたアンケートでした。

- オミクロン株が流行した第6波が終わり、感染状況が落ち着いているように見える現在、全国のこども食堂のみなさんは、一堂に会する会食形式を開けているのか。
- コロナ禍での3度目の夏休みを迎えようとする中、今年こそは子どもの居場所が確保されるのだろうか。
- 直近の世界情勢の影響はどうか。物価高騰はこども食堂にどのような影響を与えているのか、ウクライナ避難民の方たちを受け入れているこども食堂はあるのか。

結果はこれからお伝えする通りですが、以下のように、全国のこども食堂のみなさんの変わらぬ奮闘ぶりが垣間見えるものとなりました。

- 一堂に会する会食形式でのこども食堂開催は、現在約2分の1まで回復。約1年前の第5回アンケートでは約4分の1だったので、倍増した。
- これに7月8月の再開予定(合計13.6%)を加えると62.4%となり、今年の夏休みに単純推計で約3,750箇所の会食形式の子どもの居場所が全国で開かれることとなる。
- 物価高騰に関しては、実際に食事内容等に変更が生じている、またはその予定のこども食堂が約6分の1に上った。またウクライナ避難民の方を支援しているこども食堂も5%弱あった。

他方、会食形式に戻したいが、コロナ禍で利用者が増えたことなどから、会場確保に難儀しているという声も、自由記述欄に散見されました。地域の方たちと交流する場という意味でも、コロナ禍の生活困難を支えてくれる場という意味でも、こども食堂などの地域の居場所に対するニーズは高まっており、それを誰がどのように受け止めるかが課題です。

その課題に対し、ボランティアベースで運営されている一つのこども食堂がどんどん巨大化したリ開催回数を増やすのは、できるところもあるでしょうが、全国でみんなが取り組めるという意味では、あまり現実的な解決策ではない、と私たちは感じています。

それよりは、地域の個人・団体・事業者が小さくてもよいから地域の居場所を担う地域づくり、1箇所でも10日実施するより10箇所でも1日ずつ実施される地域づくり、「1人の100歩より、100人の1歩でつくりだす地域」を呼びかけたいです。

より多くの方たちが、今回のアンケート結果を自らが暮らす地域のありようを思い浮かべながら受け止めてくれることを望みます。

むすびえ理事長
湯浅 誠



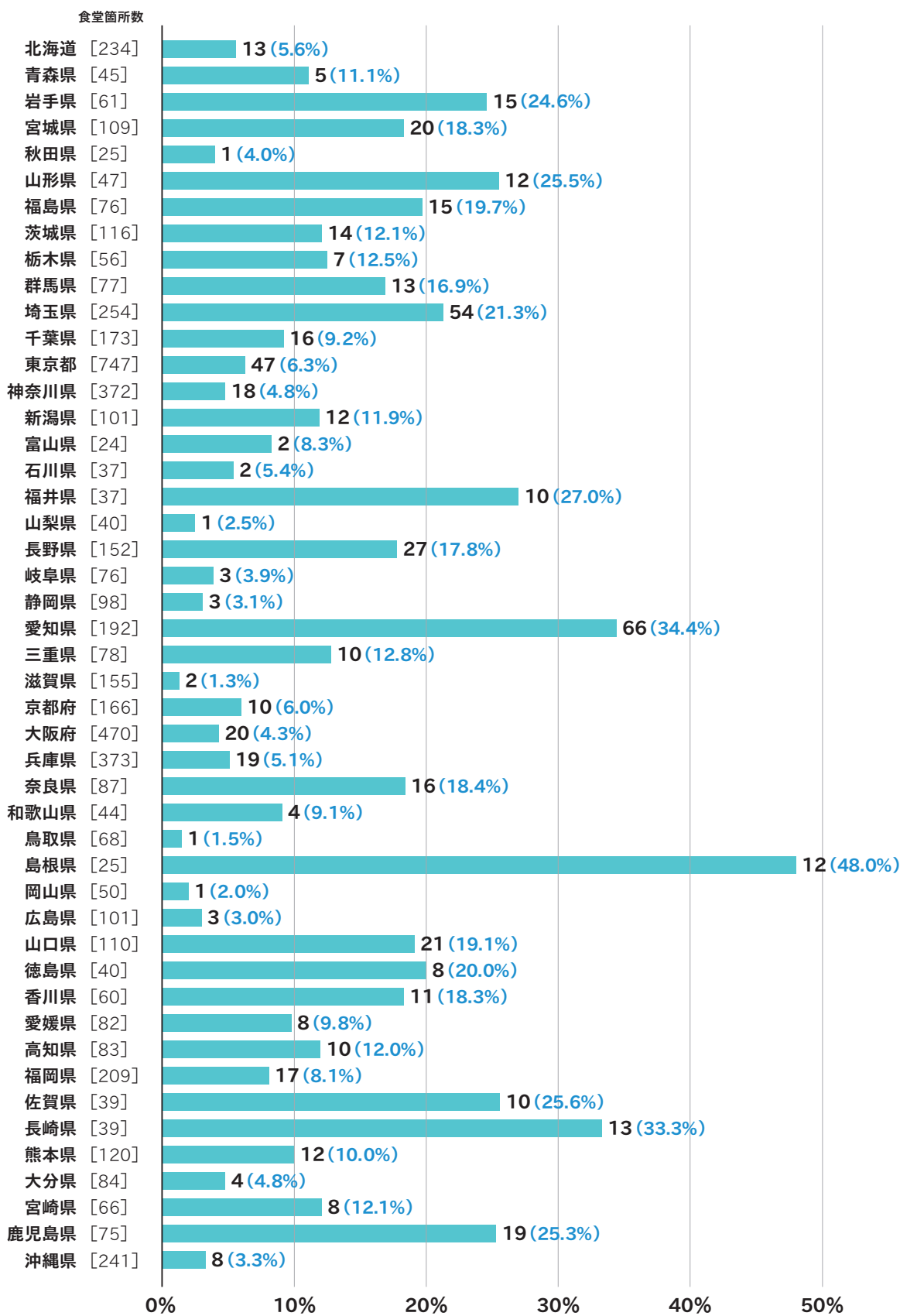
第1部

こども食堂の現状 &
困りごとアンケート

vol.6

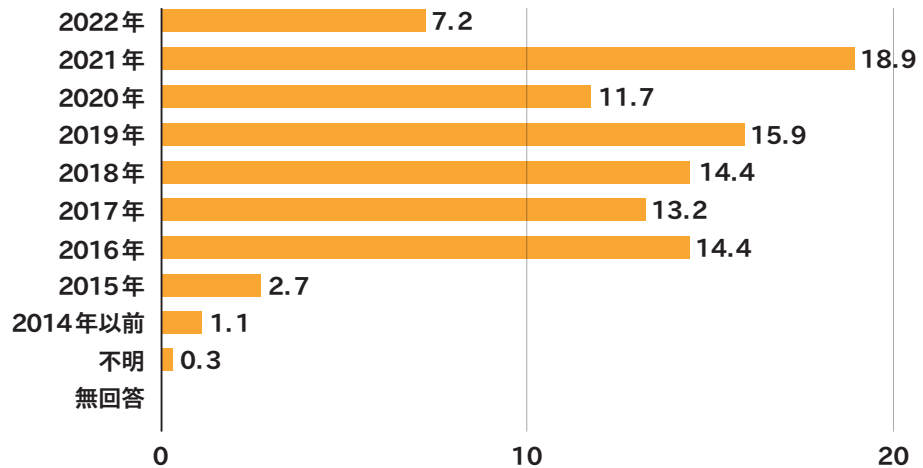
都道府県別の回答した子ども食堂の数及び回答率

単位: 件 回答数 = 623



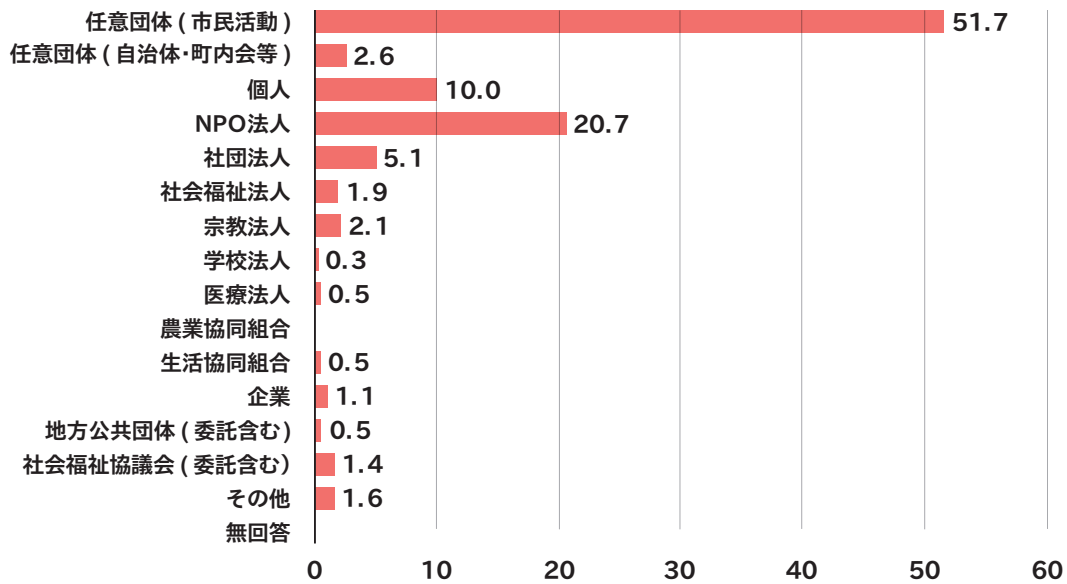
1 開始した年について

回答数: 623件 単位: %



2 運営主体について

回答数: 623件 単位: %



その他: 民生児童委員、飲食業、カトリック教会内 (宗教団体) の任意団体、指定管理者コミュニティスクール学校応援団 など

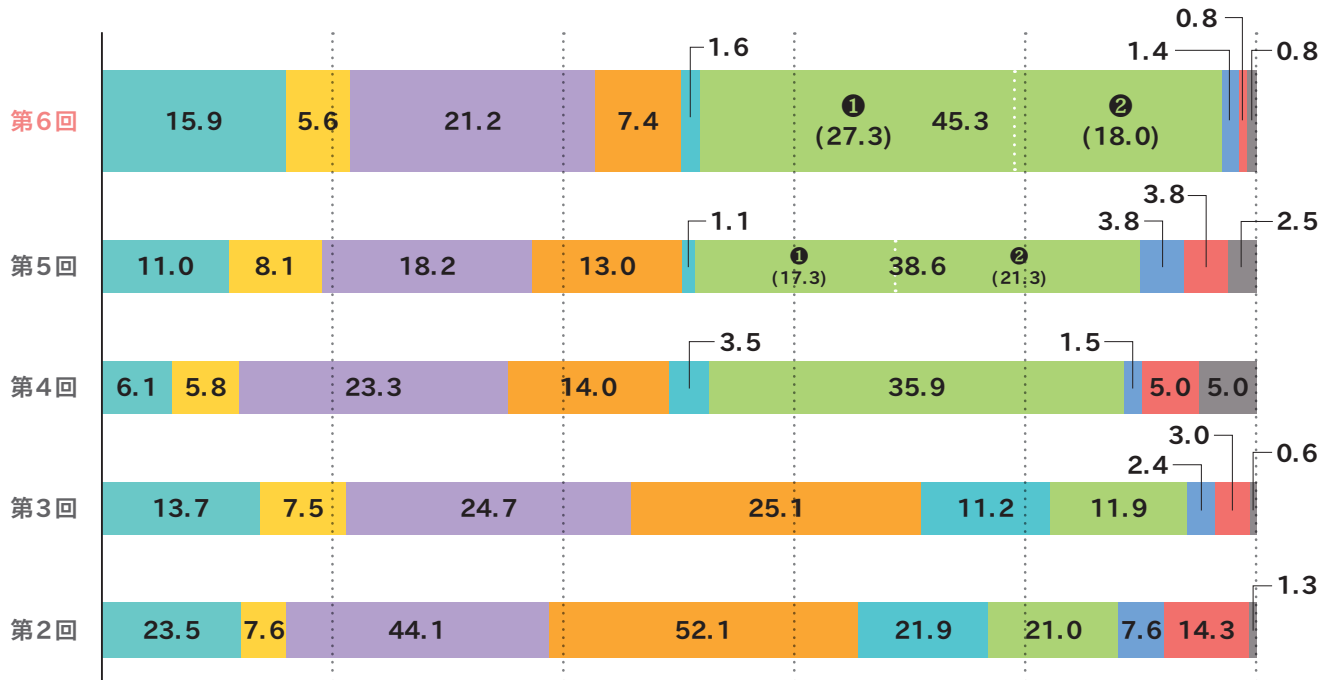
アンケートからわかること

- ・ 今回の回答者においては、過去4年2022-2019年に開始した団体が53.7%と全体の半数以上となっている。
- ・ 運営団体については任意団体 (市民活動) が51.7%と最も多く、次いでNPO法人の20.7%、個人10.0%と上位3項目で82.4%と8割を超える水準となった。

3 開催状況

回答数: 623件 単位: %

参考: 第2回アンケート結果 2020年6月現在、460件 ※複数回答あり
 参考: 第3回アンケート結果 2020年9月現在、708件 ※複数回答あり
 参考: 第4回アンケート結果 2021年2月現在、343件 ※複数回答あり
 参考: 第5回アンケート結果 2021年6-7月現在、446件



- 子ども食堂(これまで通りみんなで一緒に食べる)
- 子ども食堂(これまでと異なり人数制限、屋上開催などをする)
- お弁当の配布(取りに来てもらう)
- 食材等の配布(取りに来てもらう=パントリー)
- 食材やお弁当等を宅配(自宅へお届け)
- 複数活動(①子ども食堂+食材配布、②お弁当配布+食材配布など)
- その他の活動を実施
- 活動の休止・延期(再開予定時期あり)
- 活動の休止・延期(再開予定はたっていない)

アンケートからわかること

・活動を休止・延期しているのは1.6%のみで98.4%が何等かの活動を実施している。

・一堂に会する形での会食形式の子ども食堂を開催している割合が48.8% (子ども食堂(これまで通りみんなで一緒に食べる) 15.9%、子ども食堂(これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする) 5.6%、複数活動(子ども食堂を含む) 27.3%の合計)と前回の36.4%から10%以上増加する結果となった。

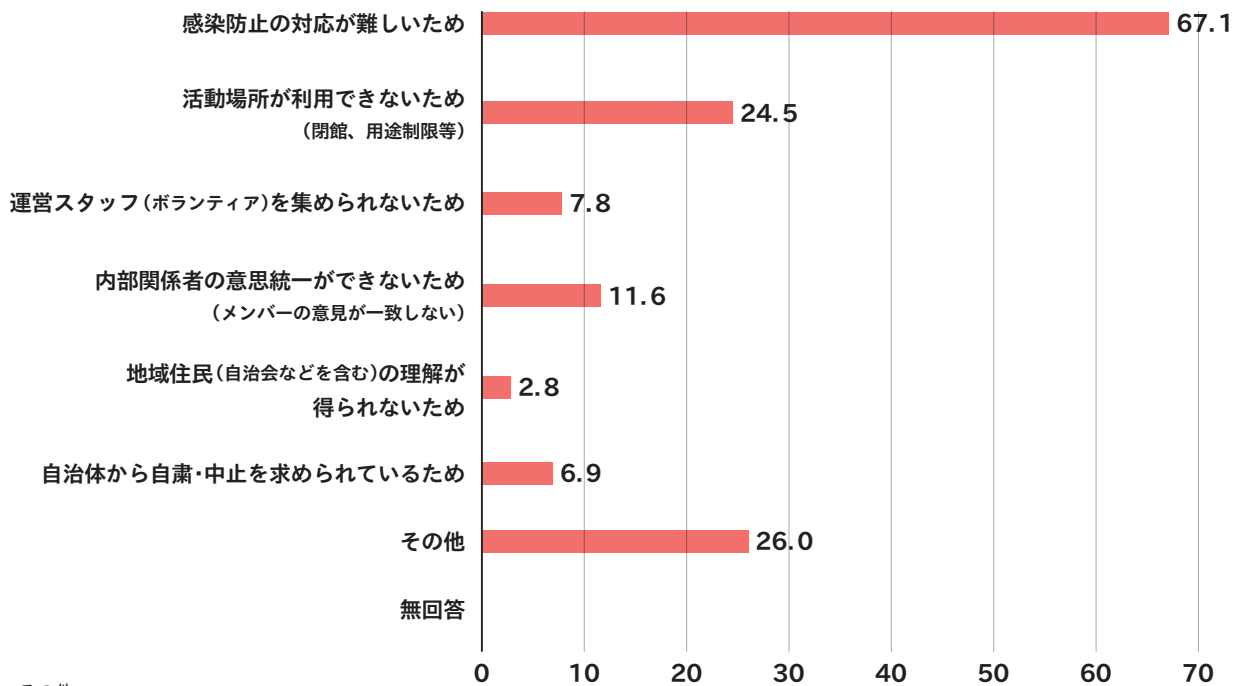
・一方、弁当・食材配布など、いわゆるフードパントリー活動をしている子ども食堂の割合が48.2%と前回の53.6%から5%減少しており、食材配布から会食形式の子ども食堂を開催する子ども食堂の増加がうかがえる。

(注記)

- ・第5回アンケート以降、これまで「複数活動(子ども食堂+食材配布、お弁当配布+食材配布)」とひとまとめに聞いていた質問項目を「複数活動(子ども食堂あり)」と「複数活(子ども食堂なし)」に層別して聴取している。
- ・なお、「複数活動(子ども食堂あり)」の内訳については、①月2回実施のうち、1回を一堂に会する形での会食形式で開催、1回を弁当・食材配布形式で開催というように定例化しているものと、②地域の感染状況に応じて開催形態をその都度柔軟に変更しているもの(開催予定日近くに地域で陽性者が出たら弁当配布に切り替えるなど)がある。

3 -1 会食形式の子ども食堂の非開催理由 (※複数回答)

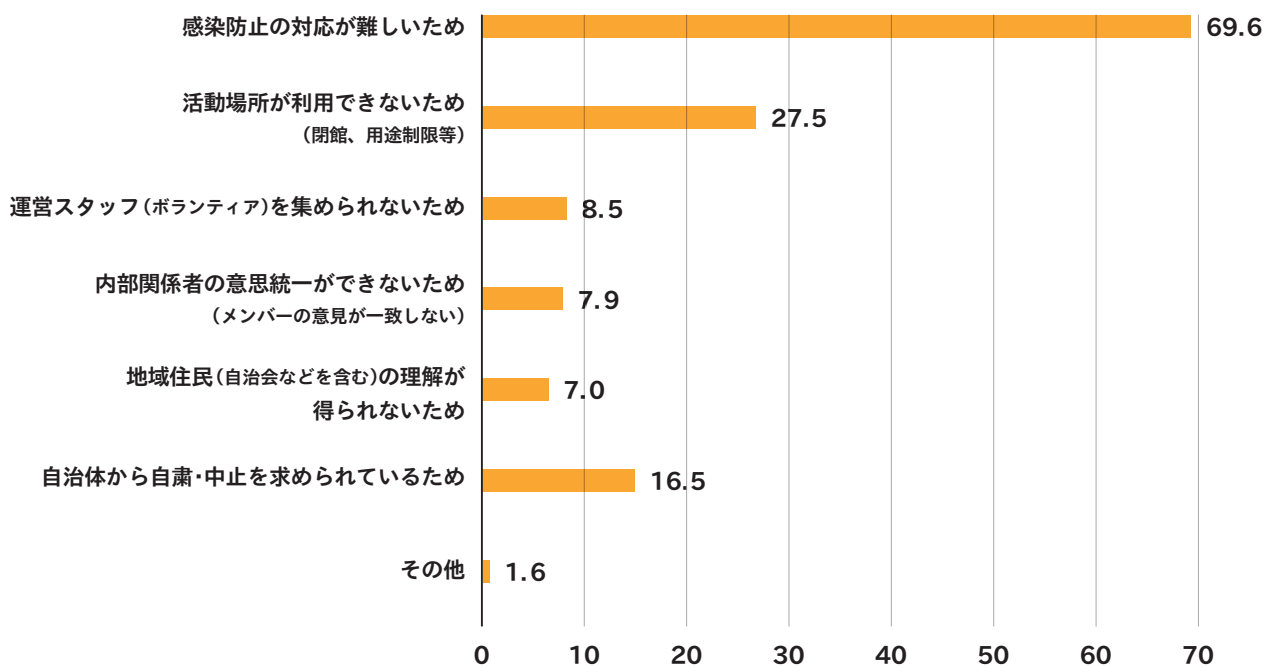
回答数: 319件 単位: %



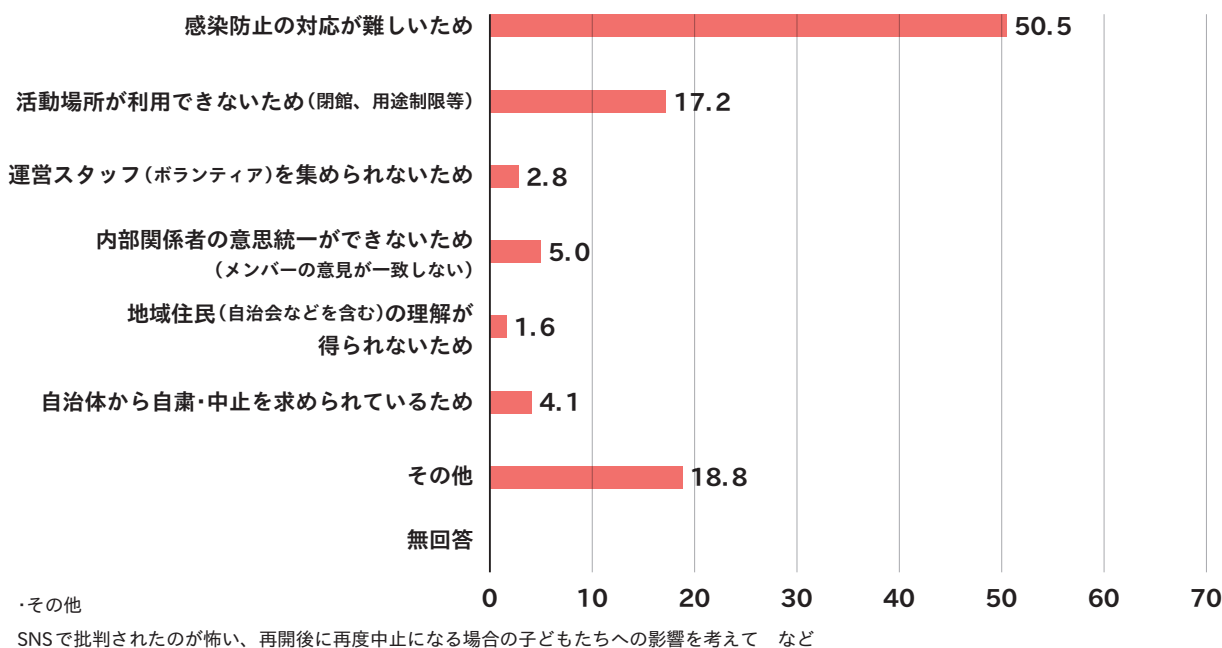
・その他

SNSで批判された、学校関係での感染が広がり、学校で活動の規制があるため など

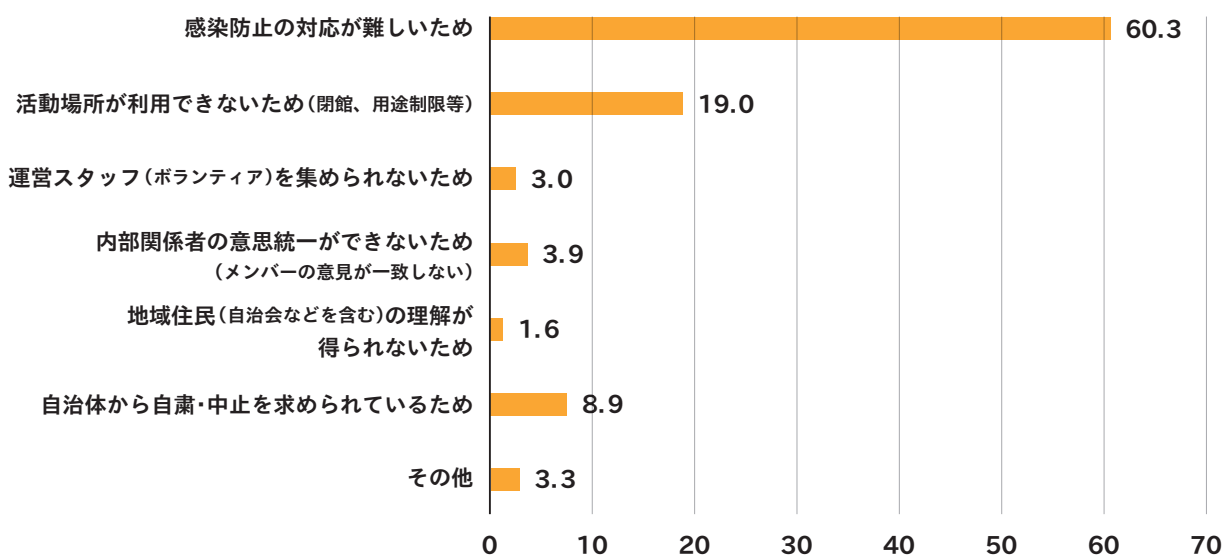
■参考: 第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 316件



3-2 会食形式の子ども食堂の非開催理由（最も） 回答数：319件 単位：%



■参考:第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 316件



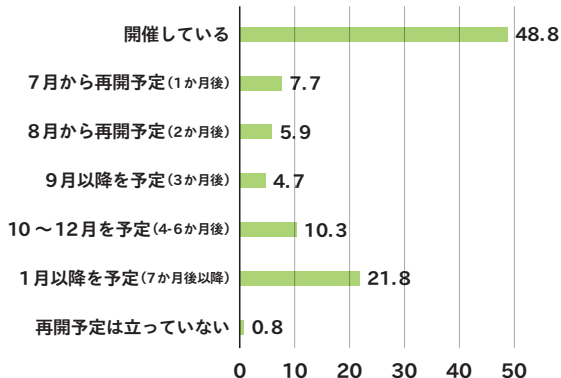
アンケートからわかること

・子ども食堂の非開催理由の回答として感染防止の対応が難しいことを理由にする人が67.1%と前回の69.6%とほぼ同じ水準となった。
一番の理由として感染防止対策が難しいという回答は、50.5%と過半数を超えるものの、前回の60.3%からは10%近く低くなっている。

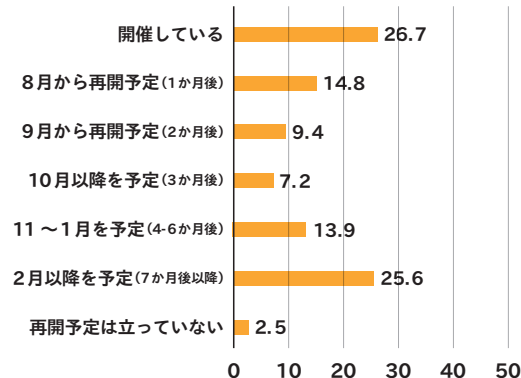
4 会食形式のこども食堂の再開時期

回答数: 623件 単位: %

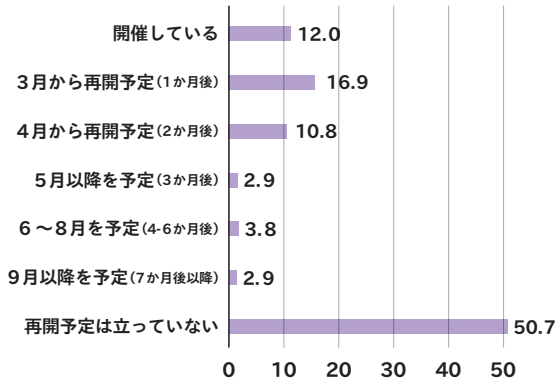
■第6回アンケート結果 2022年6月現在 623件



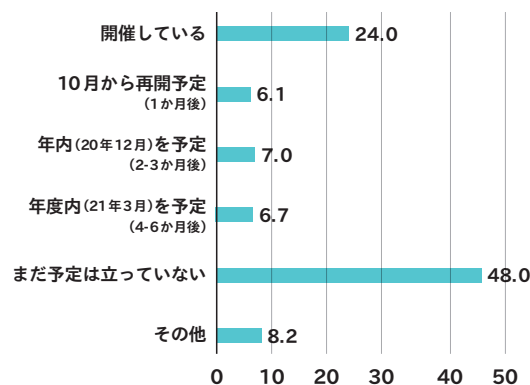
■第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 446件



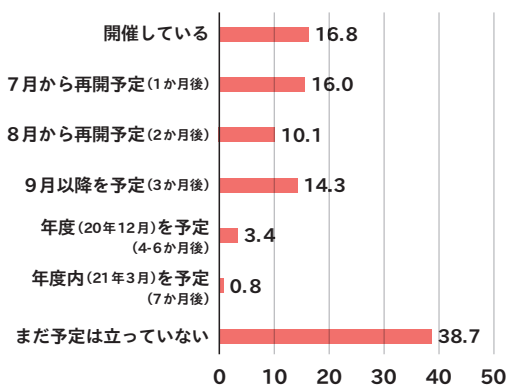
■第4回アンケート結果 2021年2月現在 343件



■第3回アンケート結果 2020年9月現在 342件



■第2回アンケート結果 2020年6月現在 238件

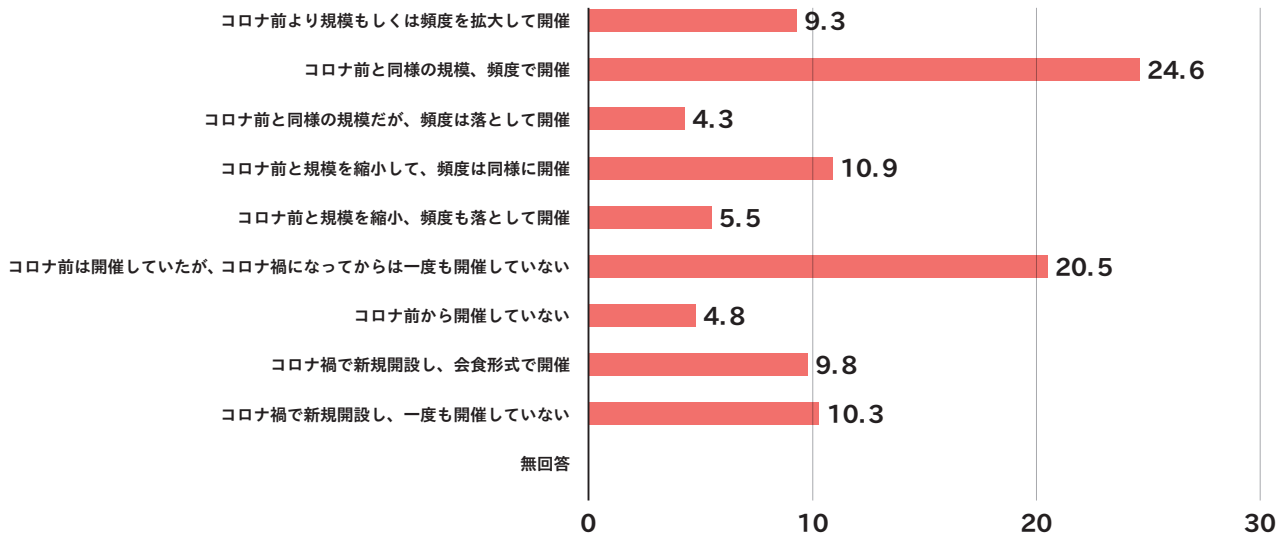


アンケートからわかること

・現在開催、1,2カ月後に開催を予定している人たちを合わせると、62.4%と前回の50.9%から10%近く増加しており、ワクチンの3回接種やコロナ禍での生活への慣れなどの影響もあり、すでに開催中、直近で再開を予定している人が増加する結果となった。

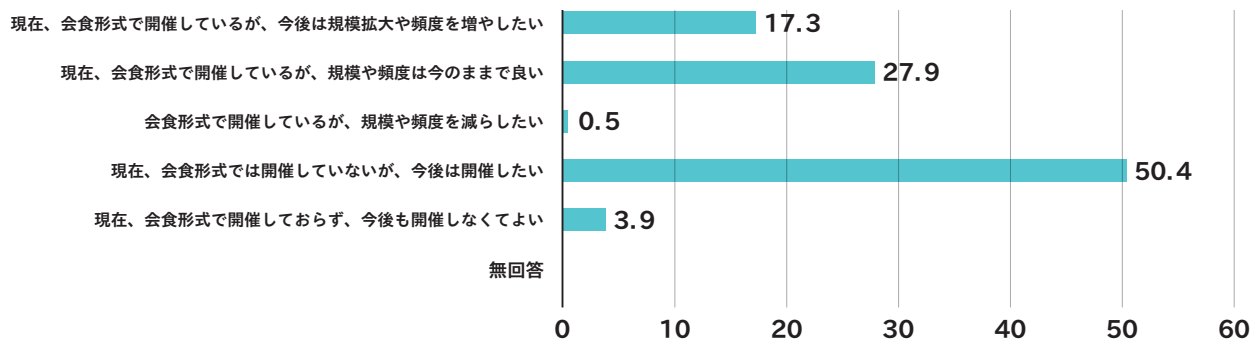
4 -1 コロナ前後での一堂に会してのこども食堂(会食形式)の開催状況

回答数: 623件 単位: %



4 -2 今後、感染状況がさらに落ち着いた場合の会食形式の実施意向

回答数: 623件 単位: %



アンケートからわかること

・コロナ後も同等の規模・頻度で実施しているこども食堂が24.6%で最多となる一方で、コロナになって以降一度も会食形式を開催していないとの回答が20.5%、規模や頻度何らかの縮小をして実施が20.7%とコロナが開催状況に影響を与えている。

・今後、感染状況がさらに落ち着いた場合では会食の実施意向は95.6%とほとんどで、同規模以上の継続実施が45.9%、再開が50.4%となった。

4 -3 実施意向の回答理由(自由記述)

現在、会食形式で開催しているが、今後は規模拡大や頻度を増やしたい

○コロナ禍に子どもの居場所や子ども食堂の必要性を強く感じ団体を設立し活動を始めました。学校でも家でも公園でもない場所で大人や少し年上のお兄さんお姉さんと会話をしたりすることが今の社会で生きる子たちに必要だと強く感じたためです。(青森県)

○こんな時だからこそ必要な場所(愛知県)

○みんなで食べることで、学校とは違う楽しさや、好き嫌いせず食べる大切さを学べる(大分県)

○やる気が出るからです。(茨城県)

○子どもたち、地域の方(スタッフ等も)の居場所で、皆さん楽しみにして下さっている。みんなの笑顔を集めたいので。(愛知県)

○私達の子ども食堂はコロナ拡大まん延している状況の時はフードパントリーお弁当配布をさせて頂きました。今年に入りコロナ終息の兆しの中、子ども食堂で食事をしたいという声に応え3密を避け手洗い消毒薬を徹底し、少人数の人数制限をして子ども食堂を立ち上げた初心にかえり 美味しい 嬉しい 楽しいをテーマに3月より子ども食堂にて子ども達に食事を提供しています。やはり、直接子ども達に接し子ども達の笑顔を見れる事を一番大切にしております。(愛知県)

○食は、人生の質を変えるものでとても大切。子供たちの食育を含め、交流の場として広く活動したい(徳島県)

○誰もが気軽に来れる場を提供したい(東京都)

現在、会食形式で開催しているが、規模や頻度は今のままでよい

○原則として、入り口での体温測定、手洗いの上に消毒を徹底した上での会食形式にこだわっている。子どもの声を聞き笑顔が見たいから。(愛知県)

○子ども達も毎回楽しみにしているようです。自主的にお手伝いをさせて下さいと申し出る子ども達が増えて手伝うことを楽しみにしているようです。(佐賀県)

現在、会食形式で開催しているが、規模や頻度を減らしたい

○パントリーでのニーズが増えすぎて、月2回のパントリー準備でスタッフが力尽きているため。(東京都)

○現在会食形式と弁当配布で開催しているが会場スペースに限りがあり、コロナが落ち着いたとしてもみなさんの意識がまだ密に対して敏感であるため、回数はそのまま弁当配布を無くし規模を小さくすることで密がさけられるのではないかと考えています。(愛知県)

4 -3 実施意向の回答理由(自由記述)

現在、会食形式では開催していないが、今後は開催したい

- 開催場所の確保が困難ではあるが老若男女が集まって地域交流ができる様な居場所作りを進めたいです。(京都府)
- 3年ぶりにコロナ禍以降、初めての通常開催(会食)に、こどもたちもボランティアも感動しました。やっぱり、みんなで食べると美味しく、楽しい時間が何よりも身体と心の元気の源だと実感、再確認をしました。(兵庫県)
- お弁当等の配布だけでは来てくださる方と落ち着いて話やふれあいがなかなか行えない。会食を行いお互いの信頼を深めたい。(鹿児島県)
- コロナによって個食が益々増えていると感じている。学校でも黙食で、食事を楽しく食べてほしいと思います。(愛知県)
- コロナ禍でオープンしたため、一度も会食ができていなかったのが、会食形式には強い希望を持っています。ただ、会食ですとテーブルに限りがあり、4時30分から6時30分だと約20名程と人数が限られてしまうのですが、お弁当配布ですと60食程度配食できます。会食だとその時間ゆっくりお話しができて心のつながりが持てますが、お弁当配布だと流れ作業となってしまいます。そのため、イベントを開催してきましたが、これがとても好評で利用の方ととても親しく心を繋ぐことができます。会食と配食を交互に月別に開催するか。など、今スタッフと話し合いをしています。ただ、食を共にする事の大切さを強く感じています。(埼玉県)
- つどうことから生まれるものを大切にしたい(鹿児島県)
- みんなでたべるとおいしいねとの子どもたちや家族の意見あり。スタッフも同様。(群馬県)
- みんなで一緒に食べるという楽しさ、連帯感は子ども食堂の本質的な部分だと思うから(埼玉県)
- みんなで楽しくご飯を食べよう、と始めたこども食堂だから(群馬県)
- 一緒に食事を作ったり、食べたりする機会を持つことで、参加者が交流し満足できて、居場所として機能するから(福井県)
- 会の目標の一つに「みんなでつくる、みんなでたべる」があるので、実践できるよう努めていきたい。また、子供の居場所づくりという観点からも、「食事ができる場所」という位置づけは大切だと考えるため。(奈良県)
- 会場が公民館であるため、行政から人数・使用時間の制限があり、会食禁止となっている。制限が緩和され次第通常に戻す予定(長野県)
- 会食を通じた世代間を繋ぐ会話の場としてこども食堂の意義を考えている(長崎県)

4 -3 実施意向の回答理由(自由記述)

○今月からお外で食べるスペースを作ろうと思っています。希望者も多いですがお持ち帰りで食べたい人も多いなと思いました。人とコミュニケーションをとれる場所を作ってつながりを大切にしていきたいです！(大阪府)

○子どもから高齢者を対象に食を介した居場所づくりとしている。以前のように一堂に会して輪や和やと言いながら楽しくすごし皆さんに食事を提供したい(島根県)

○子どもたちがみんなと一緒にご飯を食べたり、遊んだりしたいと要望がある。保護者もおしゃべりの場として希望している。(岩手県)

○子どもたちに一緒に食べる楽しさを知り、さまざまな大人と出会い、地域を知る機会として欲しいから。(埼玉県)

○子どもたちや一人暮らし高齢者に大勢で食べる食事の楽しさを伝えていきたい。(山形県)

○子どもたちや保護者と時間の共有をしたい。ゆっくりお話などが出来ると良いと思っています。お弁当の提供では、それが出来ないからです。(埼玉県)

○自治体の公共施設の利用条件が厳しく、なかなか合意が得られないため、空き家利用を検討中(徳島県)

現在、会食形式では開催しておらず、今後も開催しなくてよい

○120食を、リアル会食では、まかなえないから。(京都府)

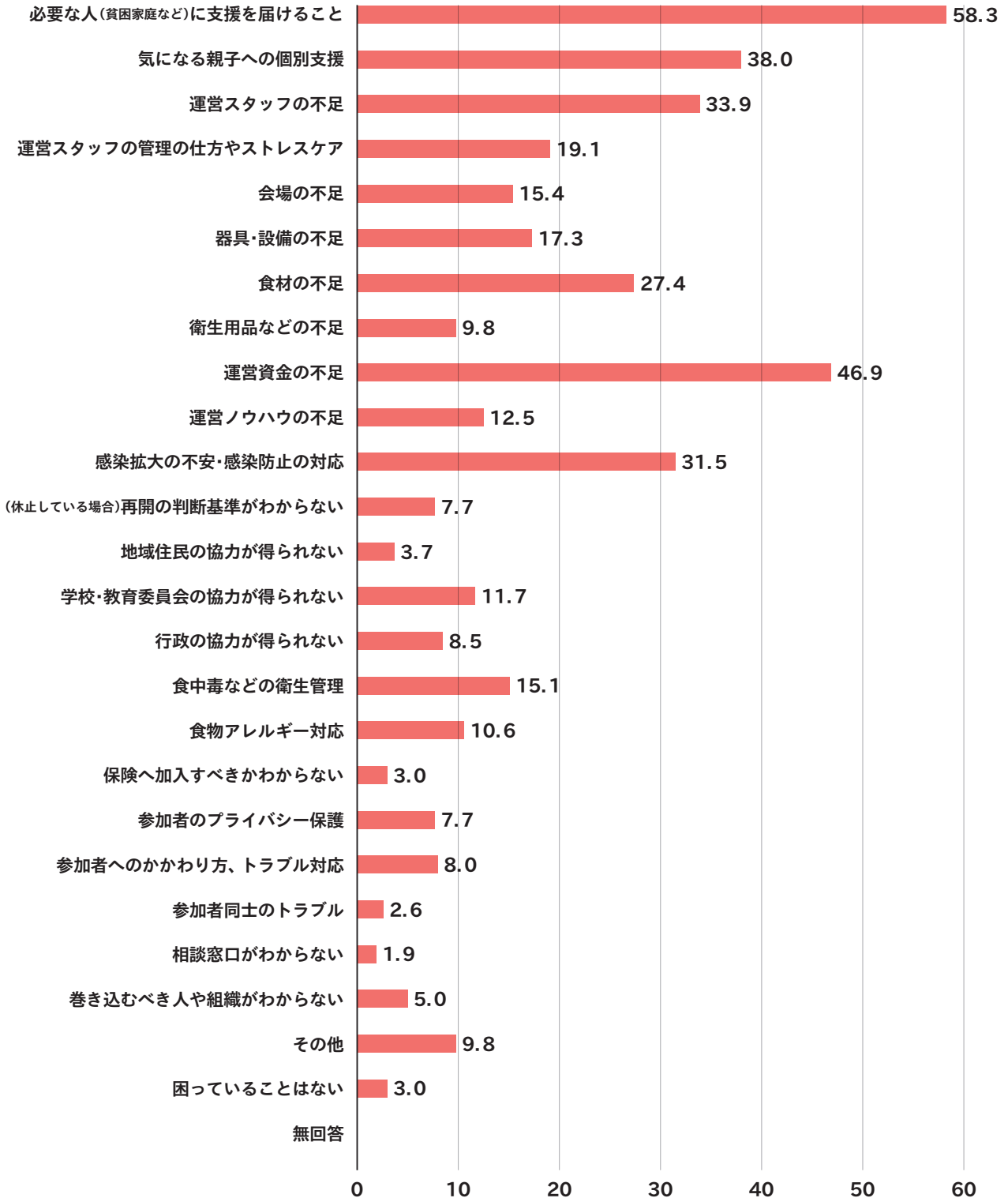
○コロナになりお弁当配布に切り替えて一年以上に成りますが、段々参加者が増えて、お弁当か、会食か、と悩んでいます。私達の地域は、高齢者が多く、こども食堂であり、地域食堂でもあるので、お弁当を作り、提供していきます。(熊本県)

○会食形式を実現させたいが、規模が大きくなり、実現が難しい状況。現在登録世帯280超、全員参加となると600超。過去最高が550人分の食事提供(持ち帰り)大きな会場を借りて一堂に食事をする機会を設けたいと思うが、現状はコロナ感染もあり難しい。配布に関しても、時間帯をずらし分散させて行っているが、ボランティアスタッフの招集にも苦労している。(福島県)

○現在のお弁当配布の利用者数に対しての施設内のキャパオーバー。(福岡県)

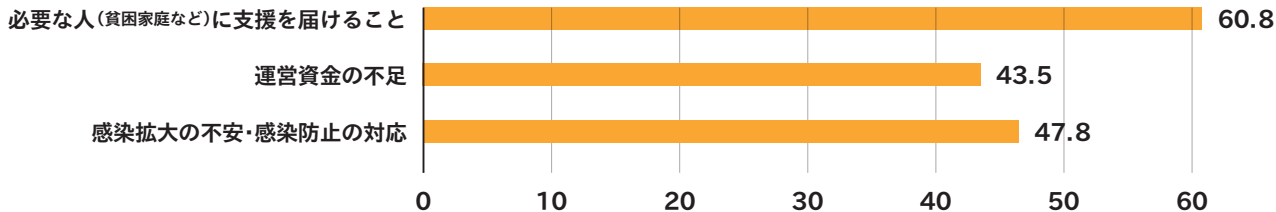
5 -1 こども食堂での困りごと(※複数回答)

回答数: 623件 単位: %

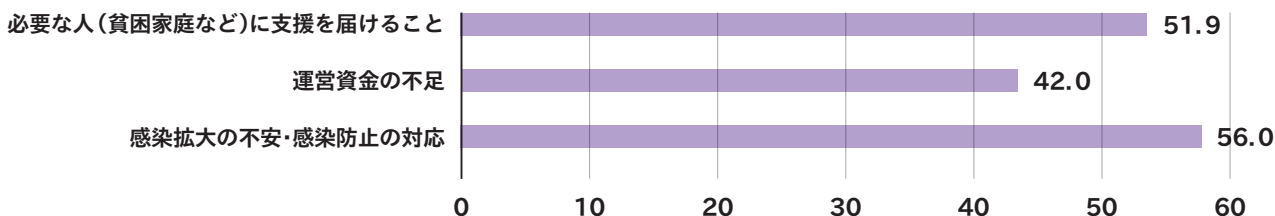


5 -1 こども食堂での困りごと(※複数回答)

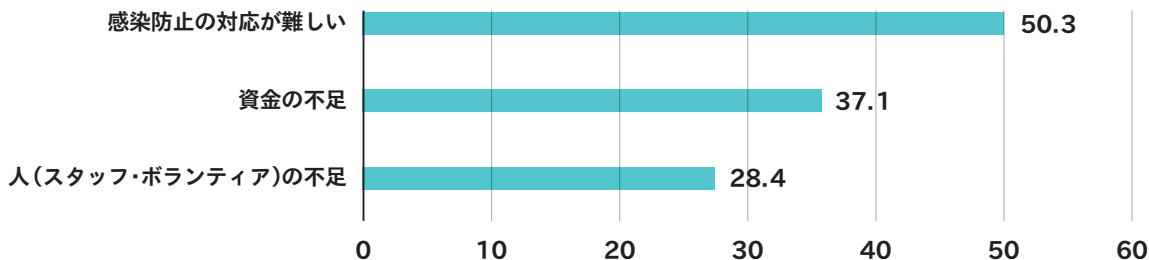
■参考:第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 回答数:446件(複数回答) ※上位3つを表記



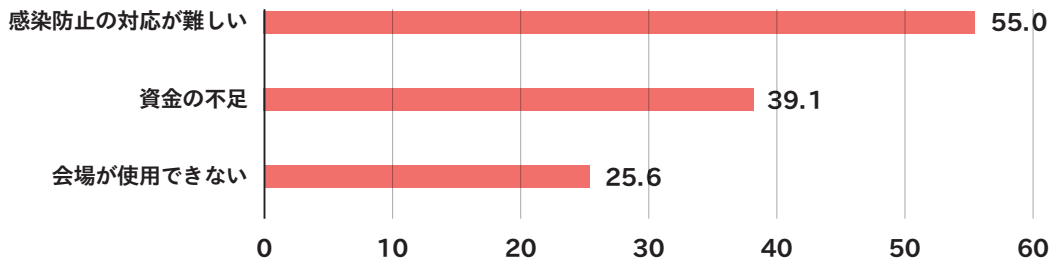
■参考:第4回アンケート結果 2021年2月現在 回答数:343件(複数回答) ※上位3つを表記



■参考:第3回アンケート結果 2020年9月現在 回答数:342件(複数回答) ※上位3つを表記

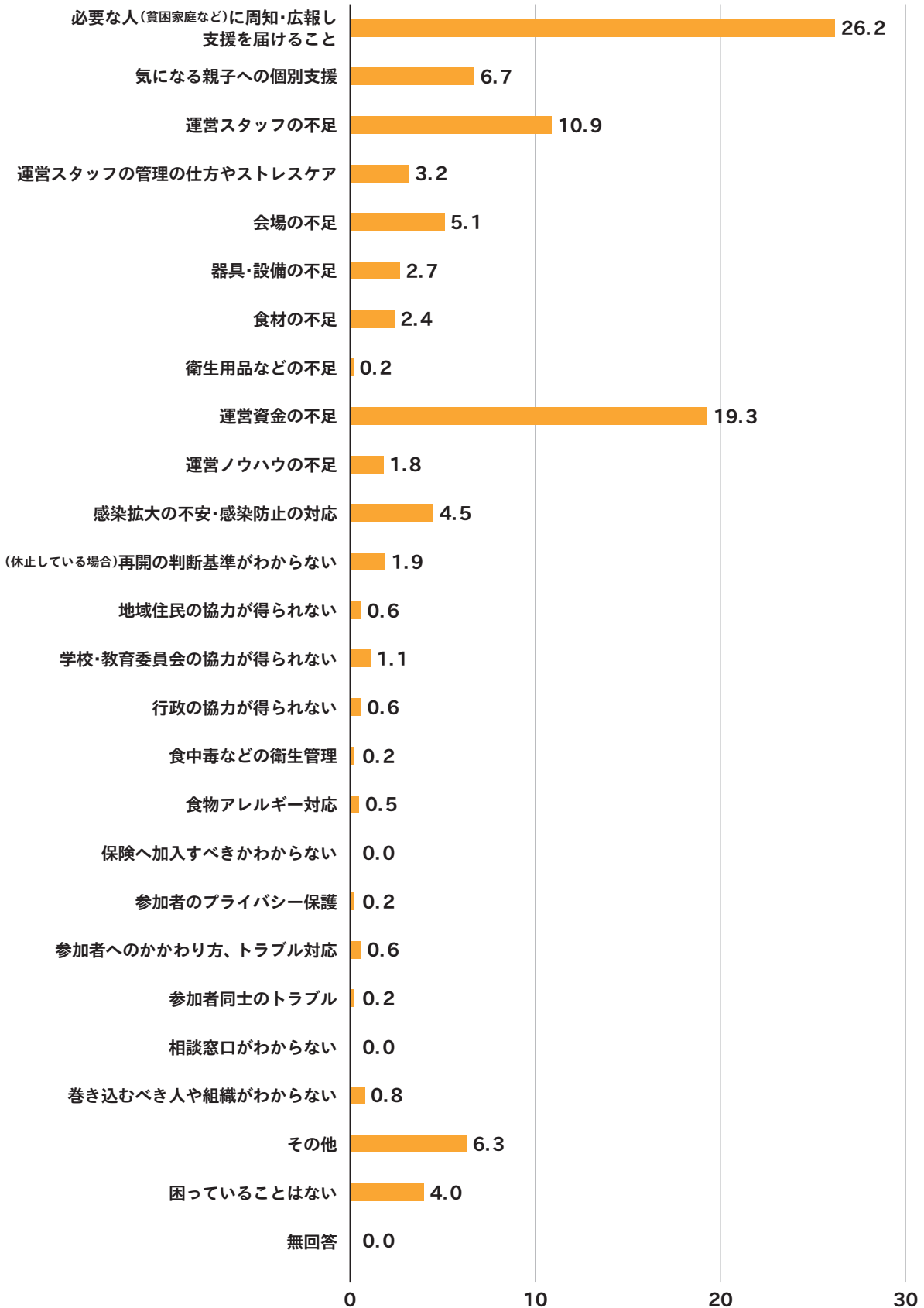


■参考:第2回アンケート結果 2020年6月現在 回答数:238件 ※上位3つを表記



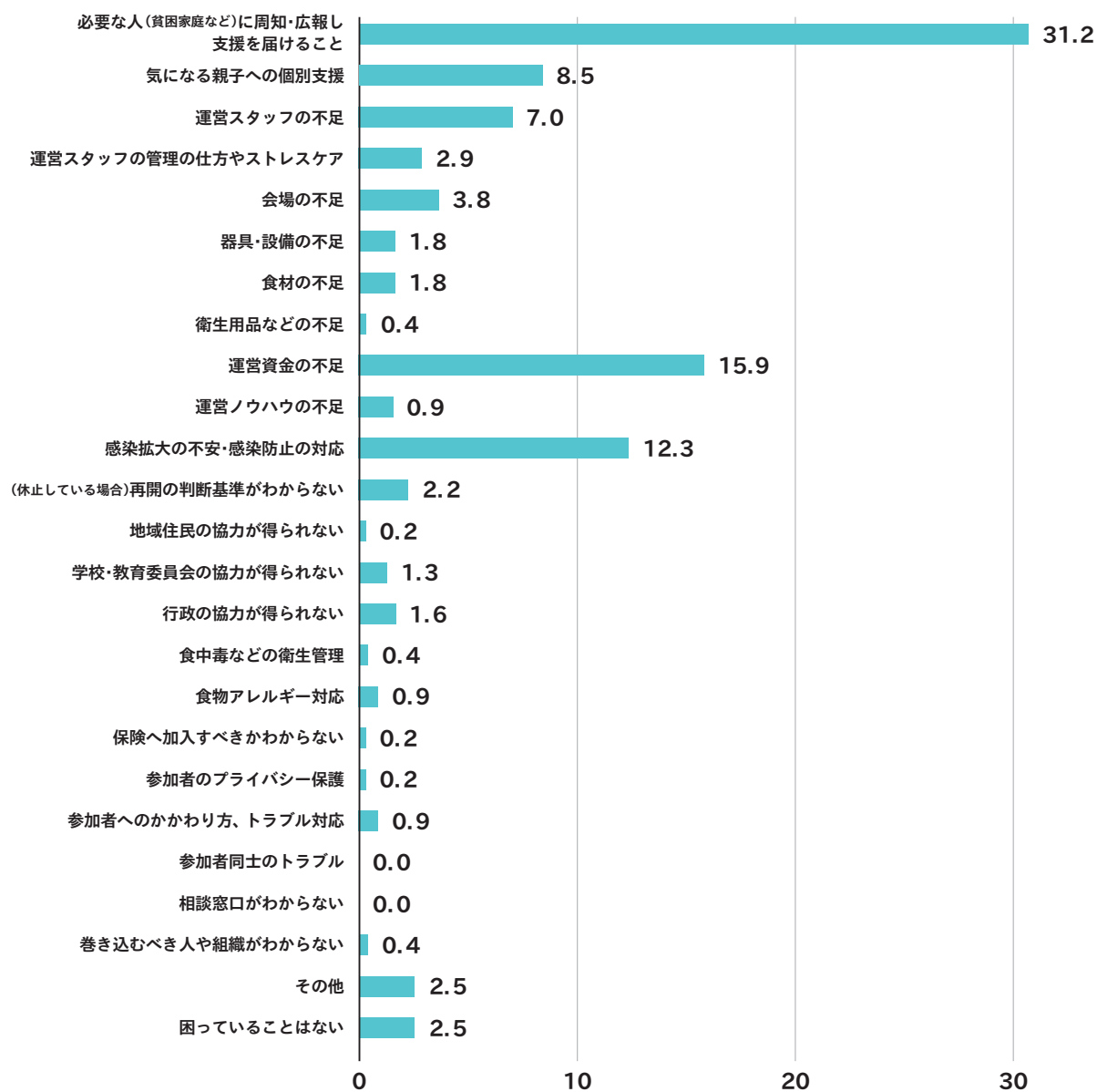
5 -2 こども食堂での困りごと（最も）

回答数: 623件 単位: %



6 -2 こども食堂での困りごと(最も)

■参考:第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 回答数: 446件



アンケートからわかること

・必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることに困りごとを感じているこども食堂が58.3%と前回の60.8%とほぼ同水準で最多となった。次点は運営資金の不足の46.9%

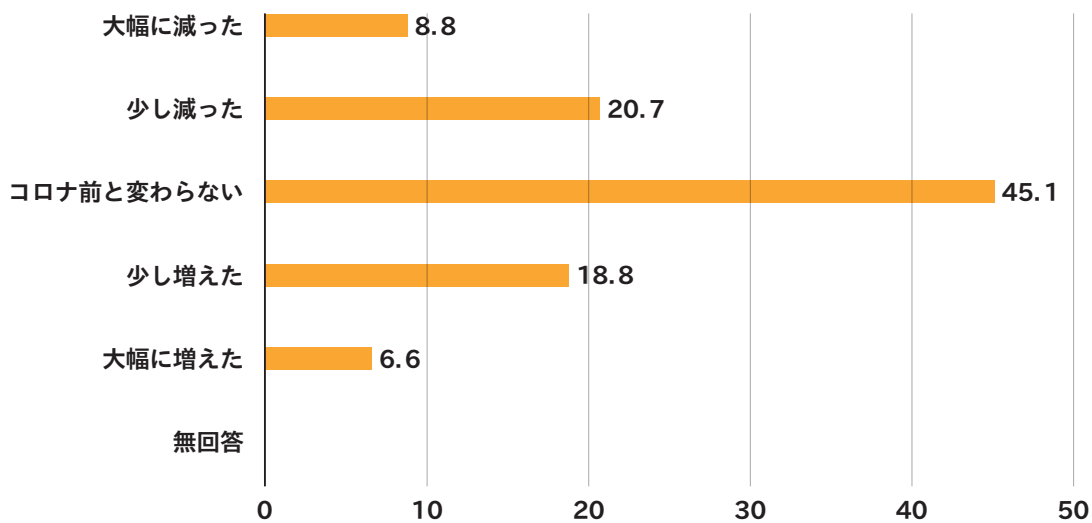
・最も困っていることの聴取においては、必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることが最も多く、26.2%。次いで運営資金の不足19.3%、運営スタッフの不足10.9%という結果となった。順位については2番目までは前回と変わらず、12.3%と3番目に多かった感染拡大の不安・感染防止については4.5%と減少する結果となった。

第2部

コロナ禍における ボランティア

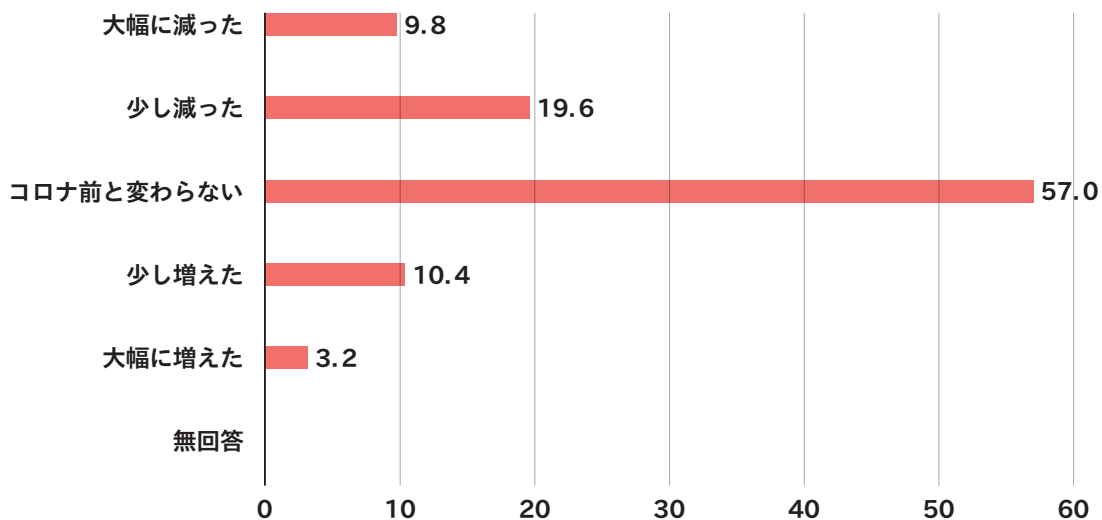
6 コロナ前と比較してボランティアに参加される方の人数の変化

回答数: 623件 単位: %



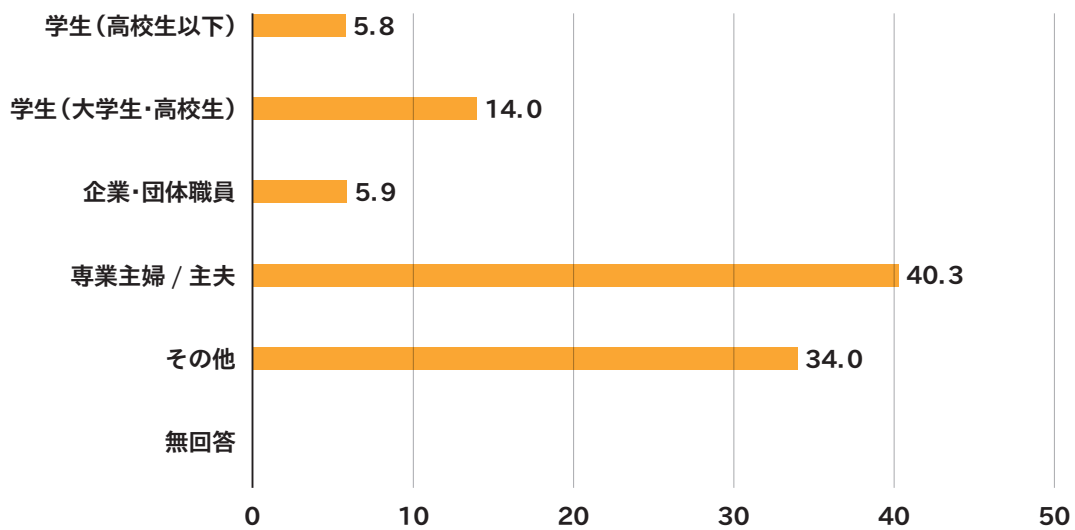
7 コロナ前と比較してボランティアに参加する高齢者の方の人数や参加頻度の変化

回答数: 623件 単位: %



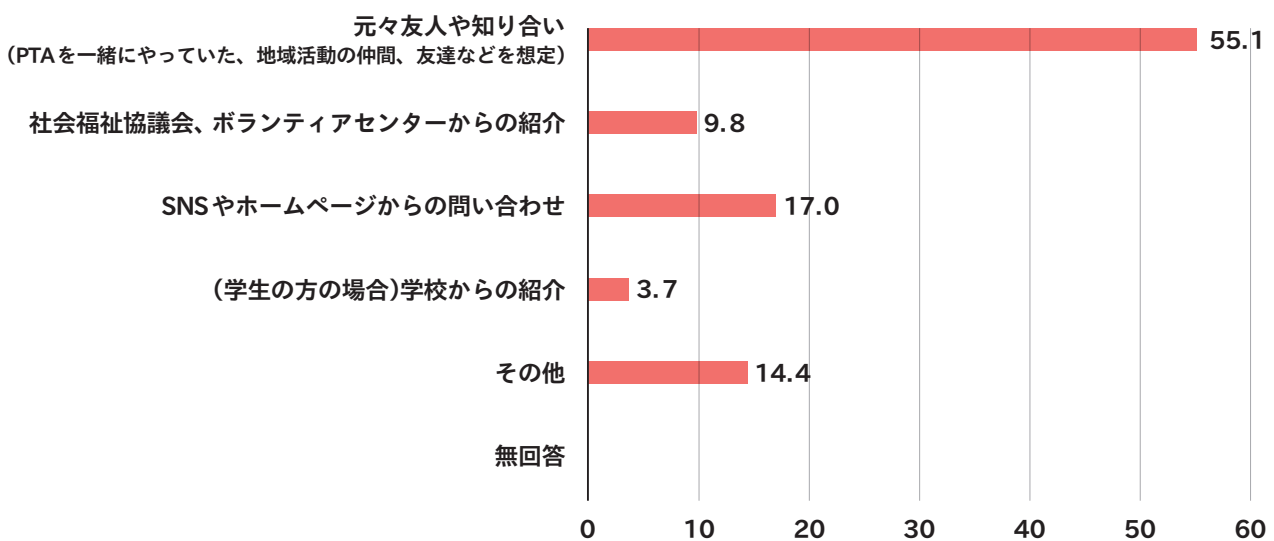
8 コロナ禍以降で、ボランティアに参加される方として最も多く当てはまるのはどの属性

回答数: 623件 単位: %



9 ボランティア活動に参加するきっかけ(経路)

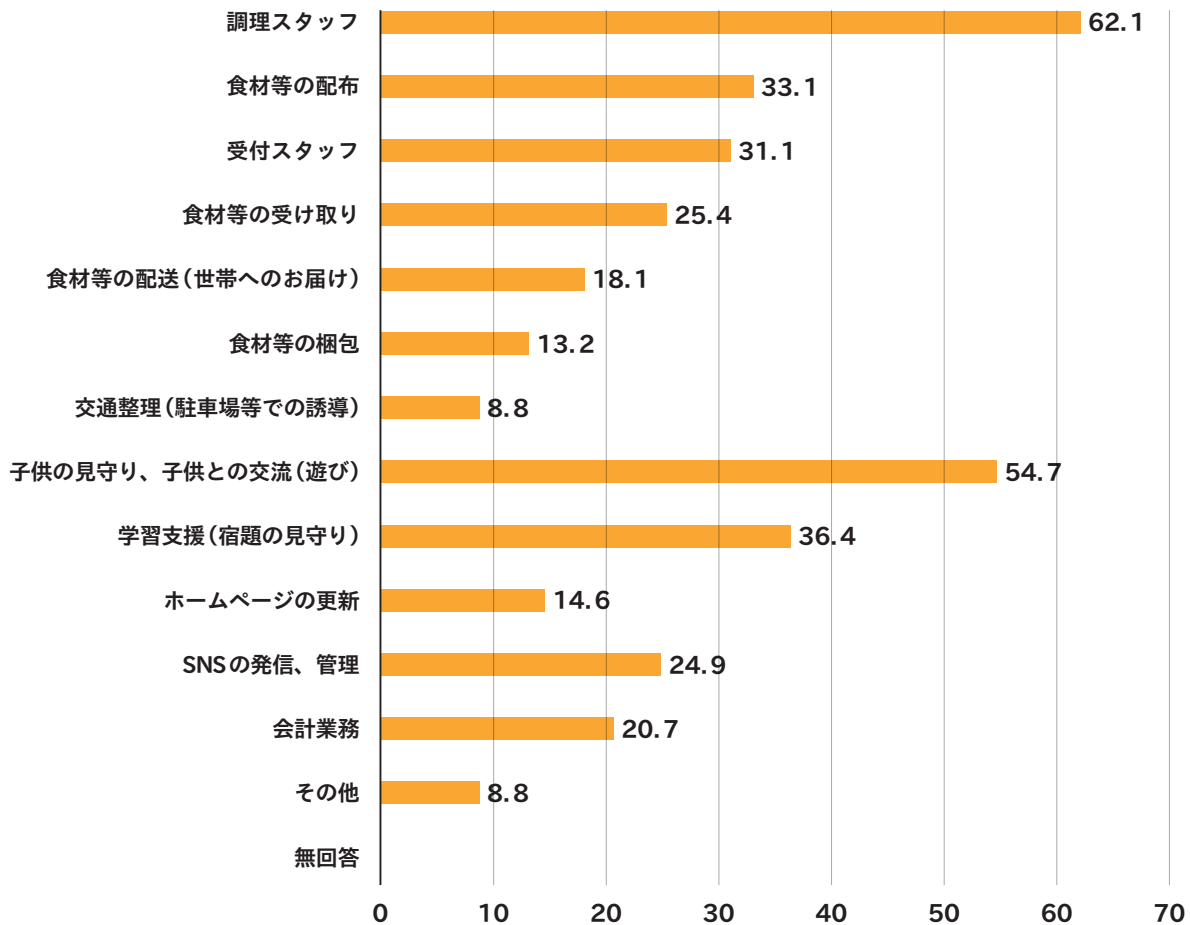
回答数: 623件 単位: %



その他:地域の方、通りすがり、協力企業の方、参加者の方、取材記事 など

10 必要としているボランティアの役割は何ですか？

単位：%



その他：献立作成、会場準備、配膳、チラシの作成 など

アンケートからわかること

・コロナ前後でボランティアの参加人数は変わらないが45.1%で最多、少し減った、大幅に減ったを合わせると29.5%となり3割近くが影響を受けている。

・高齢者の参加人数は変わらないが57.0%で最多、少し減った、大幅に減ったを合わせると29.4%となりこちらも3割近くが影響を受けている。

・コロナ以降ボランティアに参加される方の属性として多いのは専業主婦 / 主夫が最多の40.3%

・ボランティアの参加経路としては元々友人や知り合いが最多の55.1%と過半数を超え最多で、次いでSNSやホームページからの問い合わせ17.0%という結果となった。

10 必要としているボランティアの役割は何ですか？

ボランティアを受け入れるにあたって、工夫していることやお困りごとについて(自由筆記)

【工夫していること】

○『ボランティアのしおり』を作って、ルールなどを共通理解するようにした。(千葉県)

○笑顔でお迎えする・ありがたい・たすかる・嬉しいと、感謝の気持ちをお伝えする。○活動させてもらって嬉しかったエピソードなどをお話しさせてもらうなど、子ども食堂の事を少しでもより深く感じて知っていただく。○お弁当やお渡しできる物などを、ささやかなお礼としてお渡しさせてもらう。○感染対策として、検温・手洗い時のペーパータオルの使用・消毒などを徹底する(大阪府)

○社会福祉協議会等との連携により情報発信・友人・知人を介しての広報・事業周知(愛媛県)

○1時間の面談を行い、趣旨等を説明するようにしている。それがないと、思っていた食堂のイメージ(貧困の人が利用する、施しを与えるなど)といったイメージを持って参加する人がいるため。(神奈川県)

○どなたでもwelcome。互いを認め合い なかよく来てよかった 今度もきたいと思って帰ってもらうこと(愛知県)

○ボランティアさん同士が仲良く楽しくできるような環境づくり(福井県)

○ボランティアセンターを通して受けることにしています。(長崎県)

○ボランティアの方は、高校生から80代の方まで沢山来ていただいています。高校生、大学生には調理を基本からやさしく教えています。(香川県)

○ボランティアをしてくださる方の得意な事が活かせる様に配慮している(栃木県)

○皆さんお仕事をされている方が多い為、あまり負担にならないように気をつけている。(愛媛県)

○皆気持ちよく仲良く、ボランティアの方にとってやりがいを感じられるような位置づけをする(長野県)

○参加して下さっている方の、得意なことをしていただく。大人が、仲良く、楽しむ事。(愛知県)

○支援する人、される人…ではなく一緒に作っていく活動だと考え、ひとり親の方々も親子で、ボランティアに参加して下さっています。(新潟県)

○社会福祉協議会を通して学生さんを募集して学生ボランティアさんが増えています。(沖縄県)

○無理をして頂かないこと、他のメンバーさんと楽しく繋がって遣り甲斐も発揮出来るように参加して頂くこと、地域活動なので地域のメンバーとして繋がって頂くこと、ご本人も含めた地域の居心地の良い居場所となりますよう。(埼玉県)

10 必要としているボランティアの役割は何ですか？

【お困りごと】

○ある程度コミュニティができたところに新規のボランティアさんが馴染みにくい。(茨城県)

○パントリーで配布する場合は、個人情報の問題もあり、誰にでも頼めるわけではないのですが、運搬などの力仕事は依頼できるとありがたいです。(東京都)

○ボランティアスタッフがなかなか集まらない 学生が多かったが、コロナのこともあり、多くが集まる場所に学生ボランティアをお願いしてもいいのか？もしここで感染させてしまったら・・・と思うと、安易に声掛けができない(福島県)

○ボランティアは、全員子持ちなので、無理はできない。(愛知県)

○ボランティア参加するにあたって、どんなことをしたいかがわからない場合がある。こちらがやってほしいことと、ボランティアがやりたいことがかみ合わない場合などもある。(香川県)

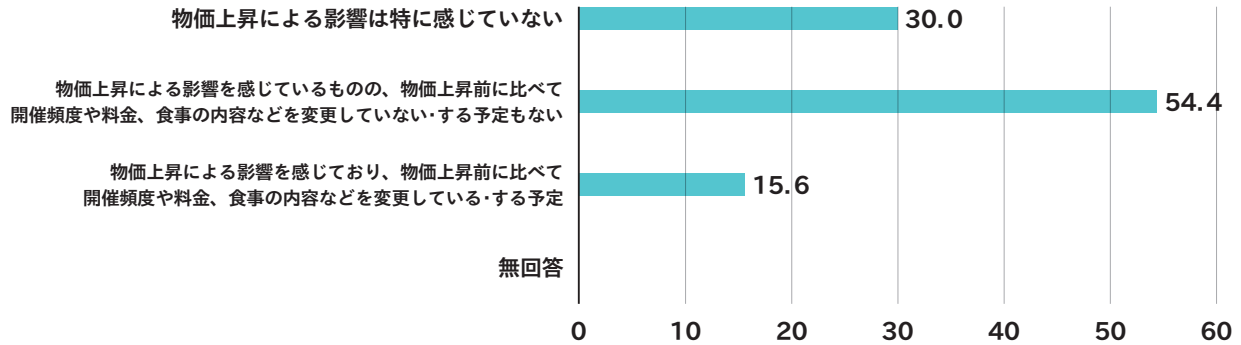
○夏休みの学習支援(毎週1回、計5回)の大学生ボランティアの確保に苦慮してます。(長崎県)

第3部

社会情勢による
こども食堂への影響

11 こども食堂や食材配布を開催するにあたり、 昨今の物価上昇の影響

回答数: 623件 単位: %



具体例:

○野菜やコメは近隣からの寄付も多く、さほど影響がないが、会場電気代の上昇、肉の価格の上昇、弁当容器の価格上昇は大きな影響がある。肉の量が減ることになる。(神奈川県)

○野菜を沢山食べて欲しい思いからメニューを考えているので、野菜の高騰は大ダメージです。地域の方に積極的に分けて頂けないかチラシに書いたり、張り紙をしたり次回からする予定。(山口県)

○油、小麦粉、玉葱など常に使うものが値上がりしている。玉葱1個を減らすかどうか迷う。(埼玉県)

○油が高いので揚げ物は避けるようになった(群馬県)

○油や粉類、高騰により揚げ物を減らしている。容器代の高騰により汁物を省く(鹿児島県)

○輸送費・食材費共に高騰している事が、ダイレクトに財政面に圧迫している。(愛知県)

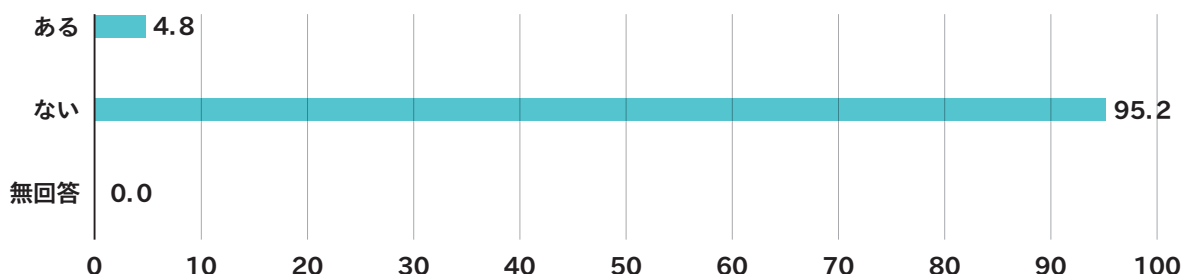
アンケートからわかること

・物価上昇による影響を感じているが70%で、そのうち、物価上昇によってこども食堂を開催するにあたり何等かの変更をしている・する予定と回答しているのが15.6%

・物価上昇によって食材を減らさざるを得ないなどの事例もあり、財政面への影響がうかがえる。

12 こども食堂でのウクライナ避難民の方との接点 (参加者として、寄付集めの拠点としてなど)

回答数: 623件 単位: %



具体例:

○寄付活動・ランチ会(佐賀県)

○3月からウクライナ避難民の皆さまに食支援を実施しています。お米が食べやすく人気です(兵庫県)

○食料配布による支援を実施している(宮城県)

○難民支援協会と協力しているため、ウクライナの避難民が来た際に協力できるよう整備している。現在もウクライナではないが海外籍の方々の支援要請もあるため、英語等同時通訳できる環境は整えている。(熊本県)

アンケートからわかること

・こども食堂でウクライナ避難民の方との接点(参加者として、寄付集めの拠点としてなど)があるとの回答は4.8%。

・具体的に食糧支援を行っている団体や寄付を実施している事例もある。

第4部

活動に関する困りごと
(自由筆記)

11 困りごとの具体例 (自由筆記)

その1 感染対策

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているもののワクチン接種が進み、ウィズコロナが日常になる中で、一堂に会する形での会食形式のこども食堂を開催している割合が48.8%になりました。また、会食形式のこども食堂の再開の目処がたってきたところが増えてきました。ただし、会場のキャパシティも限られている中で、コロナ前の開催には戻せないことや、パントリー等の活動で参加者が増えたこと等を受け、会食形式のこども食堂に戻すタイミングや感染症対策をどこまで講じるべきなのかの判断に苦慮されておられる様子うかがえます。

○お弁当提供から食堂形式へ戻すタイミングとその際の感染予防をどこまで行うか(神奈川県)

○会食形式は、感染防止の上からも今までのような人数での開催は難しいと思っています。(部屋が広くないので)敷地を整備して外でも食べられるようにしたいと思いますが、そんな資金はないので難しそうです。備品等を保管する倉庫も必要になってきていますが、それも資金がないのでまだ難しいです。(和歌山県)

○今後、再開できてもいつ感染拡大で開催できなくなるかわからないので、交流の場が定期的に分けるか不安(宮城県)

その2 学校、行政、地域組織との連携等

気になるご家庭があるにもかかわらず、民生委員や学校、行政等との連携が進まず、情報が届いていないと感じられている様子や、必要な家庭に支援ができていないという「声」が届いています。また個人情報の壁も高く、一歩踏み込んだ活動をしたくても、しづらい状況も、前回と同様にうかがえます。

また、こども食堂＝貧困対策というイメージが強く連携がすすまない状況や、国、自治体等が講じる支援策の継続性に対する不安の声も寄せられました。

○コロナ禍の中のつながり作りという目的でひとり親家庭へのフードパントリーを継続してきました。食材を通じて繋がった家庭もあれば、食材を提供されることを目的にのみの関係も多く、今後その関係をどう捉えていくか悩んでいます。今年度はパントリーの回数を減らして開催することにしましたが、これまで受け取った

11 困りごとの具体例

方から開催しないのか？という連絡が来るようになりました。国や自治体はこども食堂のフードパントリーにたくさん予算をつけてくれており、それを活用することを暗黙に要求されている気がしてしまいます。地域住民が気楽に楽しくやれるこども食堂の活動に意味があると思っていましたが、コロナで私たちの背中に乗せられたこの重荷はなんなのか？とモヤモヤしています。(東京都)

○子どもが大声で騒ぐことで近隣の方の理解(愛知県)

○始めて7ヶ月ですのでまだまだこれからだと思いますが、本当に必要な方にどうしたら案内が届き利用していただけるようになるのか模索中です。(兵庫県)

○市の公共施設を利用しています。行政の指導により会食が禁止されているため、お弁当で配布しています。担当職員に必要性を訴えても「困っているようには見えない」と理解してもらえません。(大阪府)

○行政の支援が年度で変わる(終わる)、県の予算計画が決定されるまで何も見えない事で予定が立てられない。(佐賀県)

○本当に困っている方への支援、ヤングケアラーなど困っている子どもたちに直接繋がる形、繋がる方法(沖縄県)

○子ども食堂＝貧困のイメージが学校、地域に根付きすぎており、孤食の子どもや鍵っ子の居場所、引きこもり・不登校の行き場所として利用してもらおうとしても協力が得られない。学区の小学校の教頭からは「うちに対象の生徒はいない」と一蹴された。(愛知県)

その3 ボランティア、スタッフの確保など

コロナ禍でフードパントリー等の食材等配布活動がなされる中で、再開に向けた検討が進められ、食材配布と会食形式の活動の両立をはかれるだけのボランティア・スタッフの確保など体制不足の声が届きました。また、助成金等の申請・報告による事務負担も挙げられています。

精神的、肉体的な負担が重なる中で、少しばかりでも交通費や謝金を出したいお気持ちも、前回に引き続き寄せられました。

○コロナ禍でフードパントリー形式に変更していますが、この活動も定着してきています。子ども食堂(食事形式)が開催できるようになった場合、フードパントリーとの両立が現状のスタッフ体制では厳しいです。(東京都)

○スタッフが、個人的な理由で(高齢に伴う件多し)関われる人数が減っていく。助成金の申請のハードルが高く、ストレスになる。(宮崎県)

11 困りごとの具体例

- スタッフが高齢のため、後継者養成が必要ですが、なかなか具体化しません。(栃木県)
- スタッフが子育て世代のため、仕事や育児もあり、時間確保が厳しい。(熊本県)
- ボランティア、いつも同じ顔ぶれ。楽しんで来てもらっている方も多いが、中には少し負担に感じてこれている方もいることを知った。(山口県)
- 運営ボランティアスタッフは、皆さん勤務仕事の合間で手伝ってくれていますので、活動や準備に関して役割分担が難しく、代表者の負担が増えている。(福井県)
- 助成金の申請の煩雑さ。ボランティアという域を超え、仕事以上に時間が取られ自分の生活がままならなくなっていること(群馬県)
- 固定の運営スタッフがもう少し欲しい(香川県)
- 食材は助成金や寄付によって賄えているが、ボランティアスタッフたちに交通費や少なくとも謝金を払いたいが人件費に使える助成金が少ない。とはいえ、持ち出しや寄付機集めをする時間もなく渡せていない現状がある。(青森県)

その4 会場の不足

これまで主な開催場所だった公民館やコミュニティセンター等の利用は制限があり、利用が難しい状況が続いているようです。特に再開を検討する中で、人数制限も大きなハードルとなっているようです。

さらに調理場、駐車場、物資等の保管場所、遊び場など、活動をする「場」を確保することも、運営者を悩ませています。

- 運営上最低限の事務や物資等の保管場所がないこと(広島県)
- 会場の人数制限があり、コロナ前に比べると相当な縮小を強いられるため、開催の方法や回数、対象者の制限などの目処が立たない。(埼玉県)
- 活動する市では公民館を会場として利用することを認めていないため、調理設備のある会場を確保することが難しい。(埼玉県)

11 困りごとの具体例

○区の公民館を借りての活動で、いつでも自由に使えない。もっと気軽に立ち寄れて、回数も参加者さん(周辺のアパートの子どもたち)も拡げたいと思っているが、区の公民館と言うことも有り、制限される。(滋賀県)

○自宅開放で、小さな子ども食堂を開催。参加者が多いと密が気になる。また食品・備品管理をしているが、大きな子ども食堂やパントリーの世帯数が多く、玄関が倉庫状態。毎回会場への運び込みなどが大荷物になり、回数を増やすのにも負担を感じる。(三重県)

○立ち上げて四年目になります。子ども食堂が地域で浸透してきたのか、参加者が増えています。定員36名の部屋で定員オーバーになります。食事の時は、お母さんと幼稚園児が子供をお迎えに来ますので、一階と二階に分散して食事を取っています。もう少し広い会場が欲しい。晚ごはんが終わった後、保護者のお迎えが来るまでの、鬼ごっこなど遊べる広場が欲しい。(兵庫県)

その5 資金等の不足

一堂に会して食事をしている形態よりも、フードパントリー等の活動は食材確保や弁当容器の費用がかさんでしまうことや感染症対策を講じるための資金負担に加えて、物価の高騰も運営者の負担になっているという切実な声が届いています。また、光熱費やガソリン代などの固定費の負担も重なっており、活動費を確保するための助成金の申請・報告の事務負担や、継続的な資金ではないことへの不安も寄せられました。

○「資金の不足」この先がわからないのが不安です。(福島県)

○『資金の不足』地代家賃・水道光熱費・通信費・消耗品費・食材費… 行政からの支援は全くありませんので、全て個人で負担しております。全てにおいて資金が不足しております。(佐賀県)

○あるもので、工夫しているが、全体的に余裕がない。食材費、光熱費、保険代、設備費など(愛知県)

○お弁当配食になってから、250～300食のお弁当を作る為。大量の容器が必要になり、購入資金が多額になってしまう。食材に関しても、大量になる為、食材購入に苦労している。(奈良県)

○今年度は助成金にはずれてしまい、わずかな寄付金で運営している上、食材費の高騰もあり、資金不足は深刻です。(茨城県)

○財源の確保が難しい。寄付や補助金に頼るしかないのが常に不安定です。今年は補助金がいだけでも来年もいただける保証はなく、年度内に使い切らなければならない補助金では長期の計画も考えられない。(埼玉県)

11 困りごとの具体例

- 現在食材や消耗品(使い捨て容器など)などの価格高騰などにより通常使う費用が拡大傾向にあるため。(熊本県)
- 食数を増やせば増やすほど、食材、弁当トレイの費用が掛かる(島根県)
- 来場者の増加に追い付けない食材不足。ひとり親家庭へ送る食材と送料に充てる資金も不足。配送数を増やせないし、梱包の大きさも制限せざるを得ない。(千葉県)
- 食材の高騰により、欲しい食材が手に入らない。(愛媛県)

その6 活動内容、活動ノウハウ、その他

参加者が増えていく中で、食数を増やせないことや資金確保の方法への苦悩、外国籍の方への情報提供の方法等の悩みごとが寄せられました。また、気になるご家庭への支援や介入度合いについての戸惑いもあるようです。さらには、HPやSNSの活用、チラシ配布等、地域住民への情報発信や広報への課題も届いています。

- ・継続して収入を増やしていく方法が思いつかない。また参加者が増えていくが食数をこれ以上増やして行くことができなくて断る状況になっているのが困っている(山形県)
- ・『こども食堂＝貧困』のイメージが強く、気安く参加できない家庭もあるのではないかと子供だけで参加できることを周知する場が必要と考える(宮城県)
- ・SNSでの告知の仕方(新潟県)
- ・みんなおいでのスタンスではあるが、現に困っている家庭も気になる。(福井県)
- ・ホームページやSNSなどの広報力が足りていないので、口コミだけなので。(栃木県)
- ・気になる家庭(グレーな家庭)のどこまで突っ込んで良いのか。(香川県)
- ・日本語が読めない方、ネット環境のない方、友達などのネットワークを持たない方に情報が届いているのかがわかりませんし、どうやって情報を届けたらいいのかがわかりません。(愛知県)
- ・地元コミュニティのこども食堂の受け入れが中々厳しいです。残念です。(鹿児島県)



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.6

結果報告

本アンケートは、ご寄付により実施をしております。

ご支援に感謝申し上げます。

むすびえでは、本アンケート結果を元に、

こども食堂支援企画を立ち上げて参ります。

引き続き、こども食堂へのご理解、ご協力のほど

どうぞよろしくお願いいたします。
